

一般社団法人日本小児看護学会
2020年度 第1回定時社員総会（評議員会）議事録

日時：2020年6月14日（日）13:05～15:45

場所：Zoomを使用したWeb会議

理事：浅野みどり、及川郁子、大村知子、勝田仁美、上別府圭子、塩飽仁、添田啓子、檜木野裕美、新家一輝、野間口千香穂、三輪富士代、薬師神裕子

監事：内田雅代、濱中喜代

選挙管理委員長：内正子

評議員出席者：有田直子、市原真穂、江本リナ、大見サキエ、加藤令子、鎌田佳奈美、来生奈巳子、金城やす子、込山洋美、佐藤朝美、佐藤奈保、白畑範子、関根弘子、祖父江育子、高野政子、高橋泉、竹之内直子、田村恵美、泊祐子、友田尋子、中込さと子、中村伸枝、奈良間美保、西田志穂、西田みゆき、野中淳子、服部淳子、濱田裕子、古橋知子、古谷佳由理、松浦和代、松岡真里、水野芳子（五十音順）

出席社員数：52名（会場47名、委任状5名）

欠席社員数：2名

【開会】
出席者数の確認

司会の塩飽副理事長より、13:05に開会が宣言され、出席者の確認があった。一般社団法人日本小児看護学会評議員数54名（2019年6月14日現在）のうち、会場出席者47名、委任状による出席5名、欠席2名であり、定款第27条2項により評議員の過半数の出席を満たしていることから、社員総会が成立した。

理事長挨拶

新型コロナウイルス感染者が世界で700万人を超え未曾有の状況になっている。日本では緊急事態宣言が解除されているが、未知の感染症であるが故に、大変な事態には変わらない。このような状況の中、医療現場の皆さん、教育現場の皆さんのご尽力に感謝申し上げます。幸い子どもの感染者、重症者が少ないが、今後の第2波第3波が心配されている。このような中、第30回学術集會も開催時期を9月に変更しWEB開催となり、本年度の社員総会も初めてWEB開催となる。これまで塩飽副理事長はじめ総務委員会が丁寧に準備を進めてくれたおかげでなんとか開催することができた。皆様何卒ご協力をよろしくお願いしたい。

議事録署名人の承認

定款第29条により、社員総会の議事録署名人として、祖父江育子評議員、高野政子評議員が推薦され、出席した評議員の過半数の賛成が認められ、承認された。

議長選任

定款第26条により、理事長浅野みどりが議長に任命された。

【報告事項】

1. 一般社団法人日本小児看護学会 2019年度理事会報告（p.1）

浅野理事長より資料に基づき報告された。

1) 第1回理事会報告（2019年5月26日）

①2018年度収支決算及び監査結果、②2019年度予算案、③監事の会計監査の方法変更、④HPのリニューアル、⑤学会30周年記念事業の継続などについて審議・承認された。

2) 第2回理事会報告（2019年8月2日）

①本学会各役員・委員会専用の固定メールアドレス並びにメーリングリスト作成・運用、②委託業者との契約書について、弁護士の確認後契約を取り交わすこと、③研究奨励賞制度の評価項目、④Asia Pacific Paediatric Nurses Association (APPNA)における小児看護の質評価プロジェクトへの協力体制、⑤学会30周年記念事業企画委員、などについて審議・承認された。

3) 第3回理事会報告（2019年10月6日）

①アルバイト料金の引き上げ、学会事務局との業務委託契約内容の見直し、②川出富貴子国際発表助成の終了後も学会として何らかの形で助成継続すること、③第29回学術集會で発生した骨折と転倒事故各1件が報告され、大会中の救護システムと学会保険について検討していくことなどについて審議・承認された。

4) 第4回理事会報告(2019年12月15日)

①協力団体へのリンクバナーを設置、②国際発表助成の選考結果、③教育委員会の公印の作成、④災害ネットワーク平常時シミュレーションの2月実施、⑤評議員選挙投票率向上のためWEB投票の導入などについて審議・承認された。

5) 第5回理事会報告(2020年3月15日)

①各委員会より2019年度事業報告及び2020年度事業計画案、②研究助成の選考結果、③政策提言に関して、新型コロナウイルス感染防止対策関連として、医療機関での面会制限等の情報収集を行い、対策等を関連機関と検討すること、④選挙地区区分について地区ごとの会員数を見直し、関東(会員480名)と甲信越・北陸・東海(399)を再編し、B地区(茨城・埼玉・栃木・群馬・富山・石川・福井・新潟; 264)、C地区(千葉・神奈川; 273)、E地区(長野・山梨・静岡・愛知・岐阜・三重; 341)と変更することなどについて審議・承認された。

2. 2019年度定時社員総会報告(2019年6月30日)(p.3)

名古屋市立大学看護学部にて行われた。出席者53名(会場出席者42名、委任状11名)、欠席社員1名であった。

【報告事項】

資料に基づき、①2018年度理事会・定時社員総会、②会員数・会員異動状況、③2018年度事業について報告された。

【審議事項】

①2019~2020年度の理事選挙報告がなされ、理事長(浅野みどり)および副理事長(塩飽仁)、指名理事(新家一輝、山田知子)の推薦、②2018年度決算・会計監査、③2019年度事業計画、④2019年度予算案、⑤名誉会員(成島澄子氏)の推薦、⑥第31回学術集会会長、について審議・承認された。

3. 事務局報告(p.4)

2019年度の正会員入会者数は334名、退会者数は211名で、1年間で123名の増員であった。2019年度末現在、会員数2,164名、正会員2,151名、名誉会員9名、賛助会員4名である。会員の内訳は教育関係1,009名、医療関係会員数878名、その他(学生を含む)273名であった。正会員の会費納入率は83%であることが報告された。

4. 事業報告

各委員長より、資料に基づいて報告された。

1) 学術集会報告(p.5)

2019年8月3日、4日にロイトン札幌にて、札幌市立大学看護学部 松浦和代氏を会長に、メイ

ンテーマを「小児看護の知を国際支援へ」として開催された。口演56題、示説126題で、参加者数1,309名であった。

2) 総務委員会報告(p.5)

①学会の運営に関しては、社員総会や会員集会の準備・実施、予算案と収支決算の作成を行った。

②外部機関との交渉を行った。

③学会運営専用のメーリングリストを作成し運用を開始した。

④学会事務局との契約の見直しを行った。

⑤弁護士に依頼しこれまでの契約内容の確認を行った。

3) 編集委員会報告(p.5)

①学会誌第28巻の編集・J-STAGE公開:2018年度の継続査読21編は、受理15編、辞退3編、掲載不可3編となった。2019年度の新規投稿は44編あり、受理13編、辞退16編となり、査読継続は15編であった。

②J-STAGEでの論文新規公開は、2019年度には総説1件、研究14編、実践報告6編、資料13編であった。

③学会誌第28巻の冊子を発行した。

④学会誌掲載論文転載許諾申請1件を承諾した。

⑤J-STAGE公開論文のメディカルオンラインにおける電子配信を行った。

⑥学術集会における委員会企画を検討し、論文査読者向けスキルアップセミナーを実施した。

4) 広報委員会報告(p.6)

①学会HPのリニューアル後の公開を行った。

②各委員会からの依頼を受けて、月に1~4回程度のメールマガジンの配信を行った。

③学会紹介用リーフレット(日本語版・英語版)の見直しを行った。

④ニュースレターの発行を行った。

5) 学術・研究推進委員会報告(p.6)

①研究奨励賞事業:評議員から選考委員10名を選出し、第11回(2019年度)日本小児看護学会研究奨励賞の選考を行い、理事会の承認を経て受賞論文1編を決定した。井上寛子、薬師神裕子(2018):ICTを活用した1型糖尿病をもつ子どもへの継続支援の効果,27,97-105。

②研究奨励賞制度に関する内規、および申し合わせ事項の改正及び候補論文の公開を決定した。

③研究助成:第10回(2020年度)研究助成に対し、4件の申請があり、2件の研究助成を決定した。また、第11回(2021年度)の研究助成について募集案内を行った。

④川出富貴子国際発表助成:第4回(2019年度)は4件の申請があり、2件の助成を決定した。

⑤学術集会運営支援事業:第29回学術集会の運営の補助及び第30回学術集会の企画・準備の補助

を行った。

⑥学術集会ガイドライン案：学術集会の中止等時の保険契約に関するガイドライン案を検討した。

6) 教育委員会報告 (p. 7)

①(研修会) 日時：2019年12月14日(土)、場所：大学共同利用施設 UNITY (神戸市学園都市)、テーマ：「発達障害のこどもへの関わりへのヒントを得よう！」を開催し、参加者は47名(会員15名、非会員32名)であった。

②(地方会) 地方会開催支援として、日時：2020年2月11日、場所：マスカットキューブ(岡山大学鹿田キャンパス内)、テーマ：「子どもの成長発達を見据えた成育志向と看護実践—子どものセルフケアを高めるための家族との協働」、代表：岡山大学小野智美氏として開催し、64名の参加者があった。

③(医療的ケアセミナー共催企画) 日時：2019年10月6日、場所：北海道大学学術交流館小講堂(札幌市)、会長：国立病院機構八雲病院 小児科 石川悠加氏とし、参加者：約130名(看護職53名、医師17名ほか)で行われた。

7) 倫理委員会報告 (p. 8)

①子どもの終末期(人生の最終段階)のケアに関して検討し、EOLC指針を作成し、HPに掲載すると共に会員に配布した。

②「子どもを対象とする看護研究に関する倫理指針」の活用と看護研究場面における子どもの権利擁護をはかる活動：第29回学術集会で、倫理委員会企画テーマセッション「子どもを対象とする看護研究に関する倫理について語りましょう！」を開催し「子どもを対象とする看護研究に関する倫理指針」の活用方法等について周知した。69名の参加があった。

③「日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針」について、新生児看護学会等からの要望を考慮して、新生児領域における倫理的課題に関連した事例の追記、本指針作成より10年経過していることを考慮し、全体的な見直し、修正を手掛けた。

8) 小児看護政策委員会報告 (p. 8)

①小児看護に関する政策提言に向けて：1) 地域における小児看護活動の役割拡大について、2) 成人との混合病棟に入院する子どもの療養環境の向上についての文献検討を行った。3) 日本看護協会医療的ケア児への看護提供体制の整備に関する検討委員会へ勝田理事が参加した。

②健やか親子21(第2次)推進協議会等での参加団体としての活動：テーマ別グループ(育児支援等)、(調査研究やカウンセリング体制の充実・ガイドラインの作成)への会議参加、リーフレット作成、男性の育児休暇に関するアンケート調査、

健やか親子21(第2次)の取り組み状況に関する調査への回答などを行った。

③健やか親子21(第2次)の活動：第29回学術集会テーマセッションにて、「地域における虐待予防と支援・連携を考える」をテーマに討議を行った。

④日本医療事故調査支援センターへの協力：日本医療安全調査機構協力者説明会は中止となった。

⑤人材養成ワーキンググループとしての活動：30周年に向けてスタートした人材養成事業「小児看護スキルアップ研修」について、主に小児看護実践基盤コースの内容検討を行った。

9) 診療報酬検討委員会報告 (p. 9)

①平成30年度診療報酬改定および令和2年度改定に向けた小児看護にかかわるヒアリング(前年度残り分)を実施し、前年度の質問紙調査とヒアリング調査の結果をまとめ、投稿準備を行った。

②令和2年度診療報酬改定要望書への看保連からの追加資料要望に対応した。

③令和2年診療報酬改定方針の読み取りと検討を実施した。

④診療報酬にかかわる説明会や委員会に参加し活動した。

⑤診療報酬について、学会員への啓発活動を行った。

⑥学会HP委員会ページの検討と作成を行った。

⑦次年度の調査「小児病棟の夜勤に関する看護体制の実態調査」計画書を作成し、看保連の研究助成に申請した。

10) 国際交流委員会報告 (p. 10)

①国際学会の紹介：2019年度に開催される小児看護に関する国際学会の一覧を作成し、学会員にメールマガジンで配信した。

②日本小児看護学会第29回学術集会(札幌市)において、川出富貴子国際発表助成受領者のポスター展示を行った。

③National Academic Conference on Pediatric Nursing of Chinese Nursing Association 学術集会での口演発表(2019年9月19日-21日 中国山東省済南市)及びAPPNA理事会に参加した。

④第6回世界看護科学学会学術集会(2020年2月28日-29日)への協力を行った。COVID-19感染拡大による政府からのイベント中止要請を受け、開催日前日の2020年2月27日に開催中止を決定し、学術集会ホームページに掲載されたプログラム集と抄録集による誌上発表となった。

⑤APPNA研究プロジェクト「アジア太平洋地域における小児看護の質指標に関する研究」の検討について、アジア太平洋地域において、小児看護ケアの標準化を行い、質の高いケアを提供することや各国間の診療ギャップを縮めることを目的とし

て提案された。APPNA 理事会でメール審議や TV 電話会議を行った結果、各国で倫理審査を行うことに課題が残るため、エビデンスに基づいたアプローチによる手法を用いて検討することになった。今後、研究計画書の修正を行い、各国からのプロジェクトコーディネーターと研究パネルメンバー、専門家パネルメンバーを決定し、プロジェクトを進めて行く予定であるが、COVID-19 の感染拡大による影響を受け保留となっている。

11) 災害対策委員会報告 (p. 10)

①台風 15 号、台風 19 号による影響に関する情報収集と対応を行った。

②各地区の災害ネットワーク作りのために、2020 年 2 月 5 日 災害ネットワーク平常時シミュレーションを実施した。評議員が地区をこえて異動することもあるため、評議員以外の会員の協力を得た現実的な対応が課題となった。

③教育推進活動：災害に関する啓発のための研修会を開催した。台風 19 号により、2019 年 10 月 12 日(土)開催予定を延期し、日時:2020 年 2 月 2 日(日)に福島県看護協会みらいホール B で、テーマ:「災害急性期における子どもへの対応。災害時、そのなかに子どもがいたら… どのような判断・行動が求められるでしょう」、講師:宮崎博之氏、佐藤めぐみ氏(福島県立医科大学附属病院 看護師)を開催した。参加者数は 48 名であった。

④第 29 回学術集会にてテーマセッション:災害情報アップデート: 災害時&災害の備えに有効なプラットフォーム作りを目指してとして行った。参加者数:約 100 名であった。

⑤学会ホームページにおける災害関連情報の整理を行った。

⑥災害支援金助成の活用推進に取り組んだ。震災支援事業(東日本大震災に関連する災害支援金として寄付された支援金による助成事業)を終了し、災害支援助成事業として新たに設けることとした。新規の災害支援助成事業については、検討を継続している。

⑦関連団体との連携として、四者協の小児周産期災害医療対策委員会への出席、JANA の HP から災害関連情報へのリンクを行った。

12) 選挙管理委員会報告 (p. 12)

①選挙投票方法の変更: 投票率向上および会員アンケートの結果より、WEB 投票の可能性について学会事務局と調整し学会ホームページ上のマイページからの WEB 投票について理事会に提案した。

②選挙地区区分の変更: 会員数のバラツキや災害時の対応を鑑み、7 地区から 8 地区に変更した案を理事会に提案した。

③2020 年度の評議員、理事選挙の準備として、選挙スケジュールを確認し、学会事務局と選挙の

方法や予算について検討した。

13) 30 周年記念事業の準備・検討 (p. 12)

①理事、評議員、第 30 回学術集会長等から構成する企画実行委員会を設置し、第 30 回学術集会における設立 30 周年記念企画についての内容の決定と準備を行った。

②特別講演:国連子どもの権利委員・弁護士 大谷美紀子氏に依頼し調整を行った。

③パネル展示:第 20 回学術集会~第 29 回学術集會会長にパネル作成を依頼した。

④会員贈呈 30 周年記念ピンバッジの企画と見積もりを行い、デザイン案の決定・発注に向け準備した。

⑤30 周年記念事業:人材養成事業 1) 小児看護実践基盤コース 2) 医療依存度の高い子どもと家族の看護コースについての進捗状況について報告がなされた。

名誉会員の表彰については、今年度は該当者がないことが報告された。

質疑応答

質問なし。

【審議事項】

1. 定款細則の改定案について(定款細則 第 4 章 評議員の選出 選挙地区区分の見直しおよび WEB 投票の変更に伴う改訂案について。)(p. 14) 浅野理事より資料をもって説明がなされた。

質疑応答

質問なし。

審議を経て、出席した評議員の過半数の賛成が認められ、可決された。

2. 2019 年度会計報告

大村理事より資料を基に報告された。

1) 収入の部 (p. 15)

2019 年度の会費収入合計は 17,000,000 円、収入合計は 37,667,257 円であった。前期繰越収支差額を合わせた収入合計は 122,238,182 円であった。

2) 支出の部 (p. 15)

2019 年度の支出合計は 38,924,464 円、当期収支差額は-1,257,207 円となった。次期繰越金収支差額は 74,351,982 円である。

3) 特別会計報告 (p. 16)

2019 年度の収入合計は 8,961,753 円、支出合計は 5,575,208 円、収支差額は 3,386,545 円となり次期繰越金となった。

4) 正味財産増減計算書 (p. 17)

経常増減として経常収益、経常費用、及び経常外増減として経常外収益、経常外費用の詳細を示している。

5) 2019年度貸借対照表 (p. 18)

年度末現在でのすべての資産と負債についての状態を詳細に示している。

6) 2020年度財産目録 (p. 19)

年度末現在でのすべての資産と負債についての名称などを詳細に示している。正味財産は、86,108,499円となっている。

7) 非営利性が徹底されていることの確認書 (p.20)

非営利性が徹底されていることについて、浅野理事長により署名・捺印されたことが報告された。

3. 2019年度会計監査報告 (p. 22)

濱中監事、内田監事にて、2020年5月12日に2019年度決算報告について監査を行い、会計帳簿、証拠書類を照合調査の結果、特に問題なかったことが報告された。

また、2019年4月1日から2020年3月31日までの事業年度の理事の職務執行について監査されたこと、方法及びその結果について報告された。

質疑応答

質問なし。

審議を経て、出席した評議員の過半数の賛成が認められ、可決された。

4. 2020年度事業計画案

資料に基づき各委員長より報告された。

社員総会：1回(6月)、会員集会：第30回学術集会オンライン開催への変更に伴い開催を中止(学会ホームページでの報告とする)しHP上で社員総会の内容を報告する。理事会6回(臨時理事会を含む)開催予定。第2回理事会は、第30回学術集会オンライン開催変更に伴い、6月26日(金)から8月29日(土)に変更開催することとなった。

1) 第30回学術集会 (p. 25)

新型コロナウイルス対応にて、会期会場開催方法の変更を行った。会期：2020年6月27日(土)・28日(日)を改め、2020年9月19日(土)～9月30日(水)、会場：神戸ポートピアホテルを改め、オンライン(インターネット上)開催、会長：二宮啓子(神戸市看護大学)、テーマ：子どもと家族のセルフケアを支える看護として開催予定。

2) 編集委員会 (p. 25)

- ①学会誌第30巻の編集・J-STAGE公開
- ②学会誌第30巻の編集及び冊子発行
- ③学会誌掲載論文転載の許諾審議
- ④J-STAGE公開論文のメディカルオンラインに

おける電子配信

3) 広報委員会 (p. 25)

①学会ホームページ：リニューアル前後でのアクセス解析結果の比較を行い、コンテンツの内容と表示方法を検討する。

②メールマガジン：各委員会からの依頼を受けてメールマガジンを配信する。

③学会紹介リーフレット：英語版リーフレットの内容のアップデート及び充実をはかり、デザインの見直しを行い、改訂版を作成する。

④ニュースレター：2020年度内にニュースレター56号(5月頃)、57号(12月頃)の発行を予定している。57号は学会30周年特別企画として、学会への“ひとこと”の掲載を企画している。“ひとこと”は、第30回学術集会参加者から募集し、ニュースレターへ掲載するほか、学会ホームページ上でも閲覧できるよう計画している。アンケートも行っていく。

4) 学術・研究推進委員会 (p. 25)

①一般社団法人日本小児看護学会研究奨励賞制度：第12回(2020年度)日本小児看護学会研究奨励賞の選考を行う。

②一般社団法人日本小児看護学会研究助成：第11回(2021年度)研究助成を公募し申請の中から2件まで選考する。第12回研究助成の広報を行う。

③一般社団法人日本小児看護学会川出富貴子国際発表助成：第5回(2020年度)川出富貴子国際発表助成について公募を行い、応募の中から4件程度選考する。

④日本小児看護学会学術集会運営支援事業：日本小児看護学会第30回学術集会において、企画、準備、運営の補助を行う。また、第31回の企画、準備の補助を行う。

5) 教育委員会 (p. 26)

①(研修会)日程：2021年1月11日(月・祝)、会場：(仮)大学共同利用施設ユニティ(神戸：学園都市)およびWeb、テーマ「家族を支えるヒントを得よう!!一気になる家族のみかたとケアの手がかり」開催予定。

②(地方会)日程：2021年2月7日(日)、会場：群馬大学昭和キャンパス内 保健学科棟、主催：関東地区 代表者：金泉志保美(群馬大学)、テーマ「ワークショップ：子どもと大人の絆を深めるプログラム(CARE™)」：代表者と開催について検討し支援していく。

③(医療的ケア研修セミナー共催企画)日時：2020年4月26日(日)9:30-17:00、会場：Webで実施、主催：一般社団法人日本小児神経学会、第17回会長：小篠史郎氏(熊本大学病院小児科)、共催：日本重症心身障害学会、一般社団法人日本小児看護学会。

6) 倫理委員会 (p. 26)

①第30回 JSCHN 学術集会以てテーマセッションを企画、最終的な開催は検討中。

②地方会で、小児医療・保健・福祉の現場における子どもの権利擁護のための研修会を開催予定 (COVID-19 の状況で最終的に検討)。

③「日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針」の内容修正を見直し、HP へのアップ及び会員への周知をはかる。

④「子どもを対象とする看護研究の倫理指針」
「子どものエンド オブ ライフケア指針 子どもと家族がよりよく生きることを支えるために」など、委員会作成指針の周知、活用を広げる。

7) 小児看護政策委員会 (p. 26)

①小児看護の重要課題に対する政策提言：1) 地域における小児看護の役割拡大に向けて、一般校における小児看護の役割について、文献検討および関係機関との連絡調整を図りながら提言について検討する。2) 成人との混合病棟に入院する子どもの療養環境の向上にむけて、文献検討をもとにヒアリング調査を実施し、療養環境の向上に向けた提言をまとめる、3) 新型コロナウイルス感染防止対策関連として、今回の影響 (面会制限など) の情報収集を行い、対策等を関連機関と検討する。

②健やか親子 (第2次) 推進協議会参加団体としての活動として、HP を通して健やか親子 (第2次) 関連の情報提供を行う。

③医療事故調査等支援団体としての活動を行う。

④人材養成事業の支援を行う。

8) 診療報酬検討委員会 (p. 27)

①令和2年度診療報酬改定の小児にかかわる改定内容を読み取り、小児看護関係者に周知する。

②診療報酬について、学会員への啓発活動として第30回学術集会テーマセッション「令和初！2020年度診療報酬改定はどう変わった？～子どもと家族の未来のために、知ろう、考えよう～！」を開催し、学会ホームページ委員会ページにテーマセッション資料を掲載する。

③令和4年度の診療報酬改定に向けた課題を整理し、検討・調査を進める。

④小児病棟の夜勤に関する看護体制の全国実態調査を行う。

⑤看護系学会等保険連合会、三保連 (外科系学会社会保険連合、内科系学会社会保険委員会連合、看護系学会等社会保険連合) 等の診療報酬の検討会に参加し、また介護報酬や診療報酬以外の予算措置についても情報を収集し、広い視野で診療報酬のあり方について、検討する。

9) 国際交流委員会 (p. 27)

①2020年開催の小児看護に関する国際学会の紹介を行う。

②日本小児看護学会第30回学術集会におけるパネル展示を行う。

③国際学会参加を促す冊子を作成する (国際学会発表のコツ)。

④2020年 APPNA 理事会及び関連学術集会へ参加する。

⑤国際交流セミナー開催の検討 (2021年以降) を行う。

10) 災害対策委員会 (p. 27)

①各地区の災害ネットワーク作り：シミュレーションの実施によるネットワークの充実を図る。

②教育推進活動：災害に関する啓発のための研修会を開催する。

③第30回学術集会：テーマセッション「在宅で生活する医療的ケア児とその家族の災害時の対応」については開催見送りを含めて検討中。

④学会ホームページにおける災害関連情報の整理を行う。

⑤災害支援に関する情報や委員会活動についての広報を行う。

⑥一般社団法人日本小児看護学会災害支援事業助成の実施 (別添資料1)。

⑦関連団体との連携

11) 選挙管理委員会 (p. 27)

①投票率向上に向けた広報活動として、第30回学術集会にて、選挙への関心を高めるような視聴覚メディアの配信をする。

②評議員選挙、理事・監事選挙の実施。

12) 30周年記念事業の準備・検討 (p. 27)

①30周年記念事業の企画準備・実施：1) 第30回学術集会における30周年企画として、30周年企画特別講演をWEB配信で行い、パネル展示は第31回に開催する変更を計画している。2) 30周年記念ピンバッジの作成と会員への贈呈を行う (学会誌送付時に同封の予定)。

②人材養成事業：「医療依存度の高いこどもと家族の看護コース」の開講、予定より少し遅れて11月末から12月ごろを予定。「小児看護実践基盤コース」の教材作成 (2021年1月開講予定)。コースエントリー (対象、方法) および管理体制の検討、コースの広報 (方法及び開始時期)

質疑応答

・昨年度の会員アンケート調査の結果で、会員の半数以上が教員であることもあり、今年度の計画に若い教員への教育研修を行う検討をいただくということであったが、理事の中でそのような議論はあったか？

➤ 具体的なものはないが、小児看護に携わった経験の少ない教員に対しての教育を含め、今後も議論していく必要がある。オンラインの開催であれば年度内での開催も可能と考え、検討を行っていく。

・新型コロナウイルスの影響による、小児看護の教育の質の担保をどのように行っていくかについて、情報共有や議論が理事の中であったか。

➤ 理事会として教育委員会を中心に検討していかなければならないと考えている。COVID-19の影響でWEBでの情報共有もしやすくなっている。具体的にご提案をいただければ着手していく。

・災害支援事業助成実施要綱(案)の助成対象にパンデミックを原因とする災害を対象とするところがあるが、どのような事例を考えているのか?助成対象テーマの(研究成果を活用して)という表記について必要性を伺いたい。

➤ パンデミックを原因とする災害も対象とするとは、休校が続く子どもたちへの支援などを想定していた。災害の定義を、COVID-19も含まれることができるような表現とした。助成対象テーマの研究成果を活用したというのは、教育的な活動や冊子の配布などを想定していた。

審議を経て、2020年度事業計画案について出席した評議員の過半数の賛成が認められ、可決された。

5. 2020年度予算案

大村理事より資料に沿って提案された。2019年度の収支決算の実績をもとに予算案を立てた。また、2019年度より特別会計を立てることとなったため、一般会計と特別会計の二本立てとなっていることが説明された。

【一般会計予算案】(p. 29)

1) 収入の部

①会費

21,550,000円を計上した。

②雑収入

400,000円を計上した。

③学術集会収入 27,326,000円を計上した。

④研修会参加費 140,000円を計上した。

当期収入合計は49,422,000円を見込み、前期繰越額を含め収入合計は123,773,982円を見込んでいる。

2) 支出の部

①会員集会費

②会議費(社員総会)理事会6回分がある。

③事業費 榎木野理事より、学術集会開催方法変更に合わせて予算修正が反映できていないことの追加説明がなされた。

④事務費

⑤予備費

以上、当期支出合計は53,348,713円である。

【特別会計予算案】(p. 30)

1) 収入の部

当期収入合計は7,033,412円で前期繰越収支差額を含め10,419,957円である。

2) 支出の部

・人件費

・会議費

・旅費・交通費

・郵送・通信費

・消耗品

・印刷費

・雑費

・謝金

(30周年記念講師謝金、e-ラーニング制作費等)

以上、当期支出合計は9,019,957円である。

以上、2020年度予算について出席した評議員の過半数の賛成が認められ、可決された。

6. 名誉会員の承認について

本年度は理事会において、新規名誉会員の推薦がなかったことが報告された。

7. 2022年度第32回学術集会会長の承認

第32回学術集会会長として、福岡市立こども病院 看護部長 三輪富士代氏が、理事会から推薦された。

出席した評議員の過半数の賛成が認められ、可決された。

【2021年度 第31回学術集会会長挨拶】

第31回学術集会会長の埼玉県立大学 教授 添田啓子学術集会会長からご挨拶がなされた。メインテーマ選定の背景、企画委員の紹介、会場や交通アクセスの紹介、with COVID-19の開催形式の検討(2021年1月には開催方法の決定を行うこと)の報告があり、協力及び参加が呼びかけられた。

会長：添田啓子(埼玉県立大学看護学部)

日時：2021年6月26日(土)、27日(日)

会場：幕張メッセ

テーマ：コラボレーションで小児看護の未来を拓く

一般社団法人日本小児看護学会 2020 年度の社員
総会を閉会した。

【閉会】

これをもって、すべての議題を終了し、15：45

配布資料一覧

- ・一般社団法人日本小児看護学会 2020 年度社員総会（評議員会）資料
- ・一般社団法人日本小児看護学会災害支援事業助成実施要綱（案）別添資料 1
- ・日本小児看護学会第 31 回学術集会に関するチラシ

この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人により
以上の議事を認め署名押印する。

2020 年 7 月 31 日

議長

浅野 みどり



議事録署名人

祖父江 育子



議事録署名人

高野 政子

